

水木しげる先生に捧げる言葉

水木しげる先生の御逝去にあたり、県民を代表して感謝の誠を捧げ、その御遺徳を悼み、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

水木先生におかれましては、悲惨な戦争に身を投じられ、左腕を失われながらも、不屈の闘志と万人を魅きつける人間性をもって、一生涯をかけて漫画に情熱を注ぎ込まれ、妖怪の世界を、戦争の悲惨さを、人間らしく生きていくことの素晴らしさを、日本人はもとより、世界中の人たちに、世代を越えて教えてくださいました。「クールジャパン」と讃えられる日本の漫画・アニメの礎を築かれたそのご活躍は、私たち鳥取県民の誇りでありました。

また、水木先生は、生まれ故郷に計りしれない力を与えて下さいました。平成五年に水木しげるロードがオープン。平成十五年に水木しげる記念館が完成。セレモニーでの水木先生の優しい笑顔を忘れることはありません。

本日「米子鬼太郎空港」はリニューアルされましたが、五年前、開港を楽しみにされた先生は、何枚も何枚も「米子鬼太郎空港」と筆で書かれ、お部屋にその書が並んでいたと伺いました。ふるさとを愛してやまなかった「しげーさん」のお顔が浮かびました。

シャッター街のシャッターが全て開いた地方創生の成功例へとふるさとが生まれ変わったのは、先生のお蔭です。「ゲゲゲの女房」ブームの頃は、年三百七十二万人もの観光客を迎えるほどの観光地に境港が発展したのは、先生と布枝奥様、御家族様のお蔭です。まさに、水木先生の人生は、小職より贈らせていただいた「鳥取県名誉県民」の称号そのままであり、鳥取県における先生の名声は、水木しげるロードや米子鬼太郎空港などとともに、永くこの地で生き続けられることとなるのであります。

先生は、妖怪がお好きで、磁石で引かれるように鬼太郎たちを作ったとおっしゃっていました。境港に帰るたびに、「知らん間に妖怪化されていて楽しい」と言葉をかけていただき、県民は喜びに震えたものです。

先生の「幸福の七ヶ条」の第一条に、「成功や栄誉や勝ち負けを目的に、ことを行っはいいない。」とあります。純粹に自らの世界を追われ続けた水木先生は、いつも輝いておられました。先生が亡くなられて今日で百日。この日は先生の九十四回目の御誕生日でもあります。今頃は鬼太郎たちと、甘い物でも頬張っておられるのでしょうか。先生がこちら側におられなくても、先生が作られた世界はなお盛んです。先生の笑顔は大きな御遺影の中だけでなく、先生を敬愛してやまないここに集う私たちの胸の中でも、温もりとともに輝きを放っておられます。

先生の御遺志、御遺徳を引き継ぎ、ふるさと鳥取県を県民とともに守り育てていくことを、謹んでお誓い申し上げます。

郷土の星から天上の星となられ、輝き続ける水木先生。どうぞこれからも私たちを、ふるさと鳥取県を、そして妖怪たちをお見守りください。

どうぞ安らかに、そっちの暮らしを楽しんでほしい。
ほんに、ほんに、だんだん。しげーさん。

平成二十八年三月八日

鳥取県知事 平井伸治